

受験番号	
------	--

受験番号					
------	--	--	--	--	--

(受験番号は丁寧に記入すること)

AI	1	1	0	1
----	---	---	---	---

平成三十一年度

国語解答用紙 (その一)

一		
二		
計		

(この欄は記入しないこと)

1/2

問題 一

問一	ア 肥次 イ 輝 ウ 概念 エ 一笑 オ 蓄積
問二	それまでの狩猟採集とは異なる農耕牧畜の生き方をする文明人にとり、周期的に訪れる季節を正確に知る必要があったから。
問三	気まぐれな自然の変化にあっても、太陽と月だけが常に周期的な変化を繰り返すという特性。
問四	北極星を中心とする円運動をする星と異なり、不規則な動きをする惑星が人間社会の変事を司る原因と考え、その不思議な力を生活の中に取り込もうとしたから。
問五	狩猟採集から農耕牧畜という文明に至る中で天体を観察し考えることで、人類は人智の及ばない神の意志を読み解き始めたということ。

問題 二

問一	父が自分を置いてどこかへ去り父との仲が壊されてしまうのではないかと、危険な状況が訪れることへの不安や恐れ。
問二	新しい母を受け入れるという本心ではない言葉を発してでも父を引き留めようとする切迫した思い。
問三	自分の置かれた状況を自覚してはいるが、無関係な話題を持ち出すことで父との別れにまつわる話を避けたかったから。
問四	父が戻ることにがたいとは思いつつも、父が帰るといふ微かな希望を抱いてバス停で長い時間待ち続けていたという状況。
問五	父が去りもり会えないという事実を幼い美子に指摘され、子どもたちの矜持でこらえていた悲しみを抑えられなくなったから。

受験番号										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

受験番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(受験番号は丁寧に記入すること)

A1 1102

平成三十一年度

国語解答用紙 (その二)

三		
四		
計		

(この欄は記入しないこと)

2/2

問題 三

問一	ア お出かけになつた時	イ ごめいせんぞ
ウ	その場に作法をわがままな人	エ 申し上げにい
問二	公卿が、上位の左大臣の牛車に出会つた。礼を尽くして車を停めたので、先払いの隨身が皆馬から下りたのに、経轡を積んでるはずの以長だけ下りた。だから、	
問三	上位の貴人の前を行く人が、後ろから来た貴人に、牛車の向きを変えず、後方を向けのまま、貴人の牛車を先に通すということ。	
問四	礼を尽くに相手には、それ相応な態度が示し、めええ言葉では指摘しなからどいつ言動に對して、礼節と正と理解した老練な侍だと高く評価される。	

問題 四

問一	五言律詩
問二	⑤
問三	天下で、古なじみの友はみな亡くなつてしまつて、
問四	よくいくばくぞ
問五	悠々時の流れの中での命は限りあるもので、親しい人はみな先立ちひとり生き延びている自分にも死が迫つてくることを受け入れて残された人生に向き合つて生きていこうと思ひ。